

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 4 月号

（1）白ねぎ出荷規格見直しで出荷量増加目指す

J A 鳥取いなばは白ねぎ生産出荷協議会は 3 月 19 日、荷受け体制や出荷方法について協議した。平成 30 年度の秋冬白ネギの出荷販売状況を確認し、荷受検査体制や出荷規格の見直しについて提案した。生産者の出荷調整にかかる負担軽減、作業性向上により、出荷箱数増加を目指す。



（2）愛菜館の出荷会員向け研修会開催

J A 鳥取いなば農産物直売所「愛菜館」の愛菜館運営協議会は 3 月 27 日、春の栽培研修会を開いた。昨年末からの暖冬の影響で、病虫害被害が例年よりも早く発生し始めていることを受けて、「病害防除と殺菌剤の上手な使い方」をテーマに開催。春の収穫や定植を前にした研修とあって、同協議会の出荷会員約 100 人が参加した。



（3）農機安全使用講習会で農作業事故防止へ

J A 鳥取いなば若桜支店は 3 月 30 日、農作業中の事故防止を呼び掛け、効率よく作業に取り組んでもらうため、農機安全使用講習会を若桜支店で開いた。支店行動計画の一環で企画し、組合員や J A 職員など 15 人が参加した。



（4）いかり原牛舎完成から 1 年 肥育牛を初出荷

J A 鳥取いなばの和牛肥育施設「いかり原牛舎」で育てた牛 1 頭が 4 月 3 日、神戸市場へ向けて初出荷された。今年の 10 月頃から本格的に出荷が始まり、年間平均で 260 頭の出荷を見込んでいる。神戸市場を中心に、地元や東京などの市場へ出荷予定。

